

# 平成30年度 第3回 埼玉県社会教育委員会議 会議録

1 日 時 平成31年1月21日（月）10:00～12:00

2 会 場 埼玉教育会館 303会議室

## 3 出席した委員 （17人）

井深 道子 委員、植田 富美子 委員、内田 修弘 委員、柿沼 トミ子 委員、  
風間 重文 委員、木村 直美 委員、小出 敦子 委員、関根 正昌 委員、  
寺山 昌文 委員、中野 洋恵 委員、西村 平雪 委員、羽石 貴裕 委員、  
春山 教子 委員、林 俊幸 委員、笛木 正司 委員、山本 和人 委員、  
和田 明広 委員、

## 4 欠席した委員 （3人）

青山 鉄兵 委員、有田 るみ子 委員、比嘉 里奈 委員、

## 5 あいさつ

埼玉県教育局市町村支援部 佐藤 裕之 副部長

## 6 議事の経過

### （1）議長の開会宣言

### （2）会議の公開・非公開

議長が会議の公開・非公開を委員に諮り、公開とする。  
傍聴者なし

### （3）会議録署名委員の指名

議長から寺山 昌文 委員と羽石 貴裕委員が指名された。

### （4）議題及び経過

#### ア 議題

- 埼玉県社会教育委員会議建議案について
- 今後の日程について
- その他

## イ 経過

### 中央教育審議会「人口減少時代の新しい地域づくりに向けた社会教育の振興方策について（答申）」について

議長	はじめに、中央教育審議会「人口減少時代の新しい地域づくりに向けた社会教育の振興方策について（答申）」について、事務局より説明願いたい。
事務局	資料1、資料1－2について説明。
議長	説明に対して、御質問があったらお願いしたい。
委員	青年会議所や事業経営などでもSDGsの取組を意識している。SDGsの17の目標の中で社会教育ではこういったところを目標にして行っていくのか、具体的に伺いたい。
事務局	資料1の2ページで説明。

### 建議案「すべての人が学び、活かし、支え合える地域社会づくりのために」について

議長	次に、埼玉県社会教育委員会建議案について、審議する。事務局より説明願いたい。
事務局	資料2「建議（案）」構成について説明。
事務局	「はじめに」について説明。
議長	御質問はあるか。
委員	特になし。
事務局	「第一章」について説明。
議長	御質問はあるか。
委員	「(2) 子育て支援」について、4・5ページの「コミュニケーション能力が育っていかなくなる。」ではなく、「育っていかなくなっている」という表現にしたほうがよい。また、5ページ6行目の「『親の学習』及び」の文言は削除してもよいのではないか。 「(3) 家庭や地域の教育力を生かした学習支援」について、「また、家庭の貧困が原因であったり、親や子供の関係が良好に築かれなかったりしており、地域の縦のつながりが見られなくなる。」の文を、「また、家庭の貧困が原因であったり、親や子供の関係が良好に築かれなかったりして、地域の縦のつながりが見られなくなっている。」という表現にしたほうがよいのではないか。

議長 断定的な表現をそうでない形で修正を検討したい。

委員 「親の学習」も重要なことであるので、修正せずにこのままの表現でもよいのではないか。

議長 表現方法を含めて再度検討していくことにする。他にいかがか。

委員 社会教育主事が発令されていない自治体に対して、現在、社会教育主事の発令について働きかけはしているのか。

事務局 市町村の主管課長会議等で社会教育主事の現状を示し、発令についてお願いをしている。

委員 4ページ3行目の「言わずもがなである。」という表現でなく、もう少し主体的な表現にしてもらいたい。

議長 そのように修正していきたい。

委員 社会教育主事や今後の社会教育士は、これから非常に重要になると考えている。人材がないこともよくわかるが、各市町村に設置してもらえる体制を整えていってほしい。

事務局 校長会議などを活用して、教員に対して社会教育主事資格の取得をお願いしているところでもある。

議長 社会教育士が社会に増えれば増えるほどよい社会になると捉えている。

委員 社会教育主事や今後の社会教育士を設置していない市町村には、設置に向けた対応を促していく必要があるのではないか。

事務局 他にいかがか。

委員 市町村の社会教育担当課の職員にも、社会教育に取り組んでいく上での知識を身に向けてほしいと感じている。

委員 6ページの(4)アクティブシニアの活躍や高齢者の支援の中で、「高齢者に対する」という文言が繰り返し出てきているので、表現を修正したほうがよい。

議長 この点も踏まえて修正することにする。

事務局 「第二章」について説明。

委員 10ページの図2-3については、9ページの図2-2のようなスパイラルにするべきではないか。また、11ページから15ページまでで、例え

ば、留意点がないものもあり、書式が統一されていない。建議を出して予算がつくのか。予算がつかない場合はどうするのか。

事務局 予算がつかなかった場合でも、既存の研修会や会議等を活用しながら講座などを組み込むことも可能だと考えている。

委員 9ページの図2の説明部分で、この図の考え方があまりよくない考えのように読み取られてしまうような書きぶりを避けたい。  
また、11ページの「とらえる」では、社会教育の視野を広くするプラスの表現でお願いしたい。

委員 15ページの「仕掛ける」で、2020年につながる表現ではなく、社会教育士の必要性についても強調したほうがよい。例えば、「社会教育士の推進体制を整備し、土壌を整えることが必要である。」などの表現を入れるのはどうだろうか。  
また、16ページの県の支援体制例で、「社会教育の重要性を踏まえた研修制度の確立」などの表現を入れたらどうだろうか。社会教育士の今後の大きな期待を入れたい。

議長 建議は県に対して提言するものであるから、そのような表現について意見をいただくとありがたい。県に対して研修制度を充実してほしいという表現で修正をしてほしい。

委員 社会教育委員会議から県教育委員会に提言する建議だから積極的に意見を出した方がよい。  
9ページにPDCAがあるが、「仕掛ける」で終わっている。評価に基づいた事業改善として仕掛けた後どうだったのか、もう少し記載することが必要である。  
また、社会教育が力を入れていかなければならないのであれば、本局が各教育事務所と連携し、職員を派遣して指導にあたるなど、主体的、中心的に関わっている記載でもよいのではないかと。

委員 SDGsに関連する事業を実施しているよい事例を市町村に広める体制を整えることが必要で、整えることでPDCAが回っていくのではないかと。確かに「仕掛ける」だけで終わってしまっては上手く回っていかないだろう。

委員 (1)「とらえる」から(5)「仕掛ける」の過程で、(1)「とらえる」で、社会教育主事の現状と必要性を入れるとよいのではないかと。また、(2)「見通し」で、2020年からの社会教育士の活躍とか養成を盛り込み、(3)「練り上げる」で社会教育主事または社会教育士の養成が示されていく記載にすると、上手く結び付いていくのではないかと。

議長 PDCAサイクルでは、次につなげる事例やそれを評価することも重要である。社会教育主事や社会教育士の役割が大きいということであれば、それを見通しながら取り入れる形で記載していくとよい。修正をしていきたい。

委員 16ページの県の役割では、主張が弱い感じがする。  
既存の事業にのせるのか、新規の事業を考えているのか、あるいは、独自の検証をしていくのかが見えない。  
また、いろいろな研修の中に盛り込み過ぎてしまうと、内容が薄まってしまうので、はっきりとした事業を入れ込んでよいのではないか。

議長 建議では、本来、私たちがどういうことを望むかを盛り込むべきである表現にするとよい。

委員 10ページにあるような「5つのアプローチ」を建議すると決めたならば、自信をもって進めていくことが大事である。県がどう建議を読み取って、市町村などにどう伝えるかが大事である。  
また、県からの指針や通知等が自然に消えていく傾向にある中、建議案を修正して、建議を広めて、実践していくことが大切である。追加した部分は必要だから追加したのであるから、もっと強い表現で周知したほうがよい。

議長 県の役割については、期待を含めながらも少し主張してもよいか。市町村や一般の方なども読むことを考えて修正したい。

委員 どう実行するかということが必要である。

委員 県から市町村などにただ周知するだけではなく、一緒にやっていくということが大事なのではないか。やってもらうという考えではなく、現場に行き、汗かいて、自分がやって、一緒になってやるという共有する考えが必要である。

委員 11ページから15ページの「とらえる」や「見通す」など、数多く出ているが、重複している点がしつこく感じる。内容がよくまとめられているだけに、同じ表現の重複を避け、すっきりとまとめたい。

議長 繰り返しは避けて記載していきたい。

委員 16ページで、PDCAの評価について加筆できれば、県の役割としてふさわしいのではないか。

議長 「第三章」について審議する。

事務局 「第三章」について説明。

議長 御意見をお願いしたい。  
評価的なことを加筆したほうがよいか。また、実施時の点検をするようなチェック事例のものがあるとわかりやすいのだろうか。

委員 評価については、これだけではわかりにくいところがある。

委員 成果と課題を整理する振り返りの場面で、評価について入れることが大事である。まとめの部分で評価について入れてほしい。

委員 誰が実施して、誰が検討していくのか。主語が何になるのかが読み取れなかった。誰が実施するのか。

議長 市町村や社会教育団体などが取り組むことになるだろう。

事務局 この次の「第四章」の実践事例では、行政から独立した団体が実施している取組もあれば、社会教育委員が主体となっている実施している取組もある。また、市町村が中心になって実施している取組など様々である。

委員 事例は実践されている取組であるが、これから社会教育を始めたい地域住民向けに、こうした事例を実践することで実際に生活がどのように豊かになっていくなどの内容を盛り込めるとよいか。

議長 建議はこの会議から県にするものであるが、県に対しては地域住民にもっと呼びかけてほしいという表現になるとよいか。

委員 事例で出ているのは市町村の取組ばかりであるが、県が市町村に期待することを書き込むことは踏み込み過ぎるだろうか。

事務局 建議は県社会教育委員会議の皆さんが県域の社会教育の在り方について御提案いただくものである。県だけに対する建議でなくてよいと考えている。  
ここまで踏み込んでもよいかどうかということについては、基本的にないと考えたい。

委員 中教審の答申でも隅々まで実践してほしいということで限定は特にしていない。建議で埼玉県らしい特色を出して、どう浸透させていくのかということになるだろう。みんなで共通認識をもちながら、よい地域社会をつくるための建議にしたい。そのためには、もう少し踏み込んでもよいのではないか。

議長 他にいかがか。

委員 若者をもっと巻き込みたい。中教審答申でも記載されているが、大学についてももっと加筆してもよいのではないか。事例で団体は多く出てくるが、若者の参画という事例がない。

議長 高等教育では、地域社会の連携が補助金の対象になっている。若者の参画についてよい事例があれば追加することも必要だろう。

議長 「第四章」の審議にうつる。御意見があれば伺いたい。

委員 案のとおり1事例でよい。この建議を県が市町村にどのように周知していくかを考えたい。

事務局 建議は、市町村や社会教育関係団体、関係機関などには建議を送付する。また、その他の会議等でも説明をする予定である。ただ、写真等の差し替えはあるかもしれない。

議長 「おわりに」についてはいかがか。御意見があれば伺いたい。

委員 9ページの図の「評価に基づいた事業改善」の項目について入れたい。仕掛けて終わりということではなく、もう少し進めていくまとめにしてほしい。

議長 「付録」についても、御意見があれば伺いたい。事務局から説明があればお願いしたい。

事務局 「付録」について説明。

委員 それこそチェックリストがここに追加されるとよいのではないか。例えば、「期待どおりの効果がでているか」、「事業は適切であったか」「次はどんな取組が必要か」など、事業をチェックする時のチェックがあるべきではないか。

議長 他にいかがか。

委員 市町村のそれぞれの立場でこのチェックリストを見た時に、項目によっては該当しない項目もある。そこで、「この項目は、すべての市町村の社会教育行政に関わることではない」とか、「この項目は、社会教育に携わる方がそれぞれでチェックできるように簡易的に作成したものである」というような注釈をどこかに入れたほうがよい。また、右側の空欄には、「だれが」「いつ」などを記入できるようにすると、行政側がするのか、地域住民がするのか、いつ頃実施していくのかなどの方向性が示されるのではないか。こうした項目を追加することで、このチェックリストが具体的に活用できると考える。

委員 その考えに賛成である。また、それぞれの実施主体によって項目も違うことが考えられるので、「その他」のような項目もあったほうが、チェックがより主体的になってよいのではないか。

委員 チェックリストを付けるのであれば、「参考例」ということで付けてみるのはどうか。各市町村などで、これを参考に独自で作成してもらい、チェックできるというようにすれば活用できるのではないか。

委員 「参考例」とするのがよい。

委員 30ページの「練り上げる」のチェック項目の中で、「学びの視点」という

	記載があるが、13ページでは「学び」の視点という記載になっている。文言の整合性がとられるとよい。
委員	チェックリストの項目を固定してしまうと、地域の特性がありながら、創造性が豊かにならない。チェックリストの位置づけを考えていく必要がある。
委員	17ページの取組例の「巻き込む」の部分と、19ページの取組例の「仕掛ける」の部分にある「PTAやおやじの会等」という文言があると、PTAへの負荷とも捉えられ、不安感を与えてしまうことが懸念される。また、おやじの会もそれほど設置率は多くない。「おやじの会」という名称よりは、「学校を支援する協力団体」などといった抽象的な表現にしたほうがよい。
委員	
議長	PTAは社会教育団体であるから記載されていると理解していたが、「おやじの会」は縛りがあるものではないので、記載しなくてもよい。また、社会教育に携わっていく方は想像力豊かでアクティブな面があるので、チェックリストをこと細かく押しつけるような表現ではない形で示していくことができればよい。
	お気づきの点は事務局に御連絡をいただきたい。

<b>今後の日程について</b>	
------------------	--

議長	次に、今後の日程について、事務局より説明願いたい。
事務局	日程について説明。

<b>その他</b>	
------------	--

議長	その他、何かあるか。
	<委員からの質問・意見なし>

<b>議事まとめ</b>	
--------------	--

議長	それでは、本日の議事は以上で終了する。
----	---------------------